



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 162 July. 1. 2020

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCEビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 寛玉山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



木曾御岳山の噴煙 昭和 55 年 10 月 14 日 『山へ谷へ 中京山岳会 50 年史』の上田竹三撮影の写真から転載
関連記事 P13

目 次

○令和2年度支部通常総会・				
支部長、新役員の挨拶	毛利邦男	2	○60山ラリーお知らせと	
令和元年度事業報告	今津英一朗	5	経過報告	山田明美 19
令和2年度事業計画		7	○60山ラリー登山記	伊藤 稔
令和2年度役員		8		山田しのぶ 20
令和2年度組織図		9	○委員会報告 山行/遭対	21
○登山学校第4期開校	榎 将美	10	○東海支部の	
○追悼 一柳政右エ門さん	大口瑛司	11	蔵書からの一冊②	石田文男 22
○東海岳人列伝⑮	西山秀夫	13	○同好会コーナー 読図	園田さえ子 23
東海支部俳壇	西山秀夫	16	○支部友コーナー	金谷正起 25
○トピックスコーナー		16	○会務報告	毛利邦男 26
○支部員だより		18	○ルーム口誌・会員異動	毛利邦男 27
壊れた膝を修復する②	和田豊司	18	○INFORMATION	27
			○編集後記	星 一男

令和2年度支部通常総会・支部長、新役員の挨拶

総務委員会 毛利邦男・今津英一朗

令和2年度支部通常総会

5月19日(日)午後4時から、令和2年度東海支部通常総会が東海支部ルームで開催された。本年度はコロナ感染症拡大の中、感染リスク回避のため、出席を予定していた方々には出席を控え、代わりに書面決議に参加していただく形を取った。委任状並びに書面決議に参加された人数の合計が定数を満たしていることの確認を受け、支部総会が始まった。高橋支部長の挨拶のあと規約により、高橋支部長に議長を委嘱し議事に入った。

第一号議案として令和元年度事業報告と決算報告：片岡副支部長の事業報告に関する説明および市川会計の決算報告に関する説明の後、和田監事より、会計監査報告がなされ、会計は適正に処理されていることが報告された。採決の結果、当議案は可決。

第二号議案として令和2年度の新体制：役員案及び組織図案が提出され、支部長より説明があった。

役員変更：

- ① 副支部長：片岡康彦氏が退任し、今津英一朗氏が新たに副支部長に就任。
- ② 評議員：片岡康彦氏が新たに就任。
- ③ 新委員長：

総務委員長：今津英一朗氏

岳連担当：鈴木愛子氏

支部友委員会：金谷正起氏

青年部：荒木 岳氏

技術向上委員会：清水亮宏氏

写真展実行委員会：坂本 孝氏

東海学生山岳連盟：草野駿希氏

採決の結果、当議案は可決。

第三号議案として令和2年度事業計画及び予算：

山田副支部長による事業計画案、市川会計役から予算に関する説明があった。

採決の結果、当議案は可決。

第四号議案として支部規定の一部改訂新会員の初年度の支部年会費の改定につき提案があり、採決の結果改定案可決。

支部長あいさつ

令和2年度を始めるにあたりご挨拶をさせていただきます。

本年度は、新型コロナウイルスの感染症蔓延という、未曾有の災難に遭遇し非常事態宣言下の年度開始となりました。支部活動におきましても、国の指針に従い活動停止措置を取らせていただき、何より生命を守る活動とさせていただきます。停止期間中は多大なるストレスを受けられたことと思います。

さて、新年度がスタートするにあたり、第一に考えなければいけないことは、日々変わる新型コロナウイルスに対応した、本会としてのガイドラインに基づいて、行動していただくことであります。趣味である山登りの活動の中で、自粛しながらの活動となりますが、最大限配慮の上再開をお願いいたします。

その中でも、『新しい生活様式』としての支部の取り組みの工夫を実践願いたいと思います。今も登山ブームは続いています、若年、青年、中高年含めて、多くの人が山に戻るでしょう。しかしながら、山への向き合い方も、人それぞれではありまして、交流や学習の仕方も、インターネットで、またSNSでの交流系登山も流行っています。こうした自由な選択肢で選べる登山も『新しい生活様式』かもしれません。どうか新しい時代を見据えた東海支部の在り方を考え、『山岳会』での山登りが山を登る人たちの選択肢から有効な選択肢が得られるように考えていただきたいと思います。

東海支部当会当支部は、日本一平均年齢が低い支部でもあるにもかかわらず、その平均年齢は67歳であり、全国一の支部員数を誇る支部ではあります。しかし、会員数は私の就任以来微減を続けています。東海支部も来年設立60周年を迎えようとし、大きな時代の



支部長 高橋玲司

転換期であり、皆さんが楽しく集える魅力ある会として存在し続けるために、今年度も危機感を持ちながら、改革を実践したいと思います。

最後になりましたが、新型コロナ白肅ムードの中、「こっそり行く」計画書未提出の人気のない藪山山行が目立ちます。60山ラリーのピークハントもあるでしょうが、先ずは警察に計画書を提出、支部のメールにも必ず計画書をご提出ください。ガイドラインの順守も重要ですが、家族にも言わない「こっそり山行」は絶対止めて下さい。

今年も安全には最大限配慮し、活躍される事と、東海支部が益々発展する事を祈念申し上げます。年度の言葉とさせていただきます。

新役員あいさつ

副支部長・総務委員会委員長 今津英一朗

このたび、副支部長、総務委員長を拝命しました、今津英一朗と申します。

ご縁があり、7年ほど前から東海支部にお世話になっております。中学時代から、オリエンテーリングを始め、高校、大学とワンダーフォーゲル部に在籍しました。彼此40年ほど山登りを趣味としています。

支部では、支部友会委員、登山学校委員、技術向上委員などをさせていただきました。

登山は体力にあった楽しみ方が出来ること、また、知識や技能を使う知的なスポーツであることも気に入っています。

みなさま一緒に楽しみましょう。よろしくお願いいたします。

技術向上委員会委員長 清水克宏

令和2年度から技術向上委員長を務めさせていただき清水克宏です。職場は名古屋、自



宅は岐阜県大垣市で、日本300名山などメジャーな山はひとまず卒業し、今は地元岐阜県の残雪期の山や、ヤブ山の魅力にとりつかれています。

技術向上委員会は、「安全はすべてに優先する」をキャッチフレーズに、技術向上による安全登山の推進、山を知り山を楽しむ機会の創造をめざして活動をしています。

技術が向上すれば、安全を確保しつつ、今まで見られなかった未知の山岳世界を垣間見られることもできます。私自身技術が未熟で、その向上を図りたいと痛感しています。皆さんと一緒に学んでいければと思っています。よろしくお願いいたします。



写真展実行委員会委員長 坂本 孝

写真展実行委員長に就任しました坂本孝です。

写真展実行委員会(現在16名)では、今まで以上に会の皆さんと意見交換をして意思疎通を図り

明るく、楽しく、和気あいあいとした会を目指しています。毎月一回程度の写真山行を始め、写真教室の開催、親睦会の開催(随時)等を行っています。

写真にご興味がございましたら、是非、写真展実行委員等にお声がけください。よろしくお願いいたします。カメラ機材は、デジカメ、スマホでも構いません。入会をお持ちしています。

また、延期なっています「第17回東海岳



人写真展」を予定では来年(令和3年)2月2日(火曜)から2月7日(日曜)、栄ギャラリーで開催するべく活動を行っています。詳細が決まり次第またご連絡させていただきます。開催の際には支部、支部友の方々を始めご友人等をお誘い、お声がけよろしく願いいたします。

支部友委員会委員長 金谷正起

この度、支部友委員会委員長に就任いたしました。今年の支部友会山行はコロナ禍で夏山も含め殆ど中止、延期となりました。新入会者も極端に少ない年になるでしょう。大きな試練であり支部友会の役割も変えていかねければと考えています。そして心置きなく山に行けるようになりましたら皆さんに喜んで頂けるよう、楽しい支部友会にしたいと思えます。どうぞよろしく願い致します。

青年部委員会委員長 荒木 岳

このたび前任の鎌倉より引継ぎ、今後JAC東海支部青年部委員長をいたすことになりました。微力非才の身ではございますが、支部をはじめ、青年部発展のため尽力いたす覚悟でございます。



青年部は近年、部員減少が危ぶまれており、そういった中で如何に我々のオールラウンドな魅力を発信するかが急務となっております。どうか、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

これにてご挨拶とさせていただきます。

愛知岳連担当 鈴木愛子

愛知岳連の担当となりました鈴木愛子です。元々、愛知岳連の講習等に興味がありましてこの度、担当させていただくことにいたしました。

微力ながら、日本山岳・スポーツクライミング協会、愛知岳連からの情報収集に努め、皆様にお伝えさせていただきたいと存じます。

どうぞよろしく願い申し上げます。



東海学生山岳連盟委員長 草野駿希

皆様、初めまして東海学生山岳連盟の新委員長になりました草野駿希(くさのとしき)と申します。

日々、学生に対してご支援をいただきありがとうございます。



私が山登りを始めたのは高校生からで一人で愛知県内の低山に登っていました。それが大学のサークルに入り支部の学生連盟に入ったことで私の知る登山は広がりました。この環境を大切にして新しく入る学生にも山登りをより好きになる場として私もがんばっていく所存です。

最後に、私達が力になれることがあればお声掛けください。全力で支部を盛り上げるためにお力になります。



東海支部令和元年度事業報告

期 日 内 容 担 当

I 公益事業

(1) 登山に関する文化・学術の振興事業

毎月第3土曜日	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
毎月1回	わいがや講座・緑陰講座の実施-外部有識者および森づくりの会の会員を講師に招き、森林・水土保全・生物多様性などの環境機能に関する勉強会の実施	猿投の森づくりの会
1月25日	佐藤丈能先生による「登山に役立つテーピング」実技講習と三浦先生による「体の構造」関節をメインとするお話(参加者39名)	技術向上委員会

(2) 児童・青少年の育成事業

4月21日	知的障がい者支援登山、SON愛知と協働 高賀山。 参加者 障がい者9名、SONスタッフ16名、支部支援者19名	ボランティア委員会
11月14日～15日	試験観察中の少年身柄付き補導委託登山「秋のタンポポ登山、鈴鹿・朝明周辺、参加者：少年2名、家裁2名、支援者11名	ボランティア委員会
8月31日～9月1日	御在所フェスティバル(ゴザフェス)、参加者20名	東海学生山岳連盟
10月と11月	親と子のふれあい登山教室 (尾高山) 参加者は合計205名 (内支部員31名が支援のため参加)	ボランティア委員会
11月9日	ひなご幼稚園「森の探検隊」-ネーチャービンゴ、植樹体験、遊歩道から紅葉した林内の探検。参加者：園児46名、保護者40名、他に園関係者・スタッフ21	猿投の森づくりの会

(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓発事業

6月8日～9日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
7月～	登山学校開校 一未組織登山者への安全登山の啓発、支部の人材の確保と育成、支部活動の活性化を目的として運営。経験及び技量に合わせ初級、中級及び上級の3つのグループに分け、一年間の実践・学習を通して技術の習得を目指していただく。初級：23名、中級：32名、上級：13名、指導員：27名で対応、毎月1回の山行と年間6回の座学の実施。	

(4) 事故防止事業

随時	指導者研修	登山学校運営委員会
4月～3月	読図山行	図書委員会
随時	チェンソー慣熟訓練・安全教育	猿投の森づくりの会
通年	留守番電話(口頭)とメール・FAX(書面)による登山届の提出の促進	遭難対策委員会

(5) 山岳環境保全事業

通年	愛知県有林「やまじの森」における保健保安林・土砂流出防護保安林の整備に加え、遊歩道の維持・水土保全・生物多様性などの環境機能の向上を目指した諸作業。	猿投の森づくりの会
通年	東大演習林での間伐作業	猿投の森づくりの会

通年	JAC所有の山桜フィールドでの森づくりと森の恵みを享受できる基地としての整備作業。	
通年	民有地での間伐作業。	
7月6.7日	自然保護全国大会 埼玉支部にて開催 1名参加	自然保護委員会
8月6日	清掃登山、伊吹山 (HAT-Jと協働)	自然保護委員会
5月～9月	モニ1000里地調査	自然保護委員会
10月5, 6日	全国森づくり連絡協議会 東京大学赤津研究林	猿投の森づくりの会、自然保護委員会

(6) その他目的を達成するための事業

5月11日	春のブラインド登山 (視覚障がい者支援登山) - 白猪山 参加者 32名 (内支援者23名-東海支部他)	ボランティア委員会
2回開催	ひまわり登山 (視覚障がい者支援登山) -参加者累計 39名 (うち支援者28名)	ボランティア委員会
10月26日	森の音楽祭: 参加者 合計414名 (内支部員スタッフ90名)	森の音楽祭実行委員会
11月4日	秋のブラインド登山(視覚障がい者支援登山) -鳩吹山 参加者 30名 (内支援者22名-東海支部員他)	ボランティア委員会

II 共益事業

通年	支部山行 (計画56回、実施33回), 参加人員延240名	山行委員会
通年	支部友山行 (計画38、実施24回) 参加 延311名	支部友委員会
随時	支部友ミーティング (計画6回、実施6回)	支部友委員会
通年	月1回の定例山行 (参加延209名) と自主山行 (4回実施、参加49名)、歩こう会発足85回実施し、参加者累計63名。加えて60山ラリー合同山行を実施 (3回実施し、参加者延べ26名)	亀の会
随時	合宿・訓練・講習; 春山合宿 5月、地図読講習 6月、小川山合宿 8月、雪上訓練 11月、冬山合宿 1月にそれぞれ実施、	青年部
通年	原則40歳以下の男女登山教室卒業生で向上心のある登山初心者29名が支部員指導のもとに毎月1～2回の定例山行に加え40回の個人山行を実施。在籍期間は2年	東海ユース
随時	趣味を同じくする同行の志が集まり7つの同好会が活動中-スケッチクラブ、東海アルパインスキークラブ、古道塩の道、読図会、TNCC、ネパール文化研究会、山の自然学研究会	同好会
随時	写真展委員会が主催する撮影山行の実施	写真展委員会
1月19日(日)	支部新年懇親会 (今池ガスビル「ガス燈」)	総務委員会

その他

支部報 年4回発行 No. 157(4月) No. 158(7月) No. 159(10月) No. 160(1月) 支部ガイド 7月
 常務委員会 毎月第4水曜日 支部長・副支部長会議 毎月第3水曜日
 通年 ホームページを利用した情報発信
 通年 メルマガ「東海支部ガイド」配信

東海支部令和2年度事業計画

期 日	内 容	担 当
1. 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月1回	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
7月～9月	森の研修会（緑陰講座）	猿投の森づくりの会
毎月1回	わいがや講座	猿投の森づくりの会
随時	森の工作（間伐材加工等）	猿投の森づくりの会
通年	森の調査（植生調査、ギフトチョウ・など）	猿投の森づくりの会
11月	森づくり体験（法人デー、NICE協働作業）	猿投の森づくりの会
2月	第17回東海岳人写真展（前年3月からの延期開催）	写真展委員会
(2) 児童・青少年の育成事業		
年1回	身柄付補導登山	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	東海学生山岳連盟
5月16日	知的障がい者支援登山（SON・愛知支援登山）	ボランティア委員会
10月下旬・11月初旬	親と子のふれあい登山教室、2回（尾高山）	ボランティア委員会
11月	森の探検隊（幼稚園児森林体験） 猿投の森	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
6月27日・28日	夏山フェスタ への協力	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第4期開校	登山学校運営委員会
8月11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会
(4) 事故防止事業		
通年	留守番電話（口頭）とメール・FAX（書面）による 登山届の提出の促進	遭難対策委員会
随時	指導者養成訓練	登山学校運営委員会
秋	チェンソー慣熟訓練	猿投の森づくりの会
随時	安全登山啓発のための講演会を年3回程度	技術向上委員会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会・山行 委員会・青年部
(5) 山岳環境保全事業		
通年	猿投の森及び果入湧留林における森づくり（雑木 林整備・人工林整備・植生など整備）＋民有林整 備	猿投の森づくりの会
通年	JAC山桜フィールド整備（炭焼き体験、シイタケ栽 培等	猿投の森づくりの会
通年	植生等保護作業（調査・マーク・保護処置作業等）	猿投の森づくりの会
通年	竹垣整備（石垣早刈・踏田整備・枯死木処理ほ い）	猿投の森づくりの会
7月	HAT-Jとの清掃登山、猿投山	自然保護委員会
5月～9月	モニタリング1000里地調査（哺乳類調査・カ エル類調査・カヤネズミ調査）	自然保護委員会
(6) その他目的を達成するための事業		
5月	春のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会
10月31日	森の音楽祭 と自然観察会他	森の音楽祭実行委員会
11月初旬	秋のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会

年3～4回 視覚障がい者支援登山②（ひまわり山行）

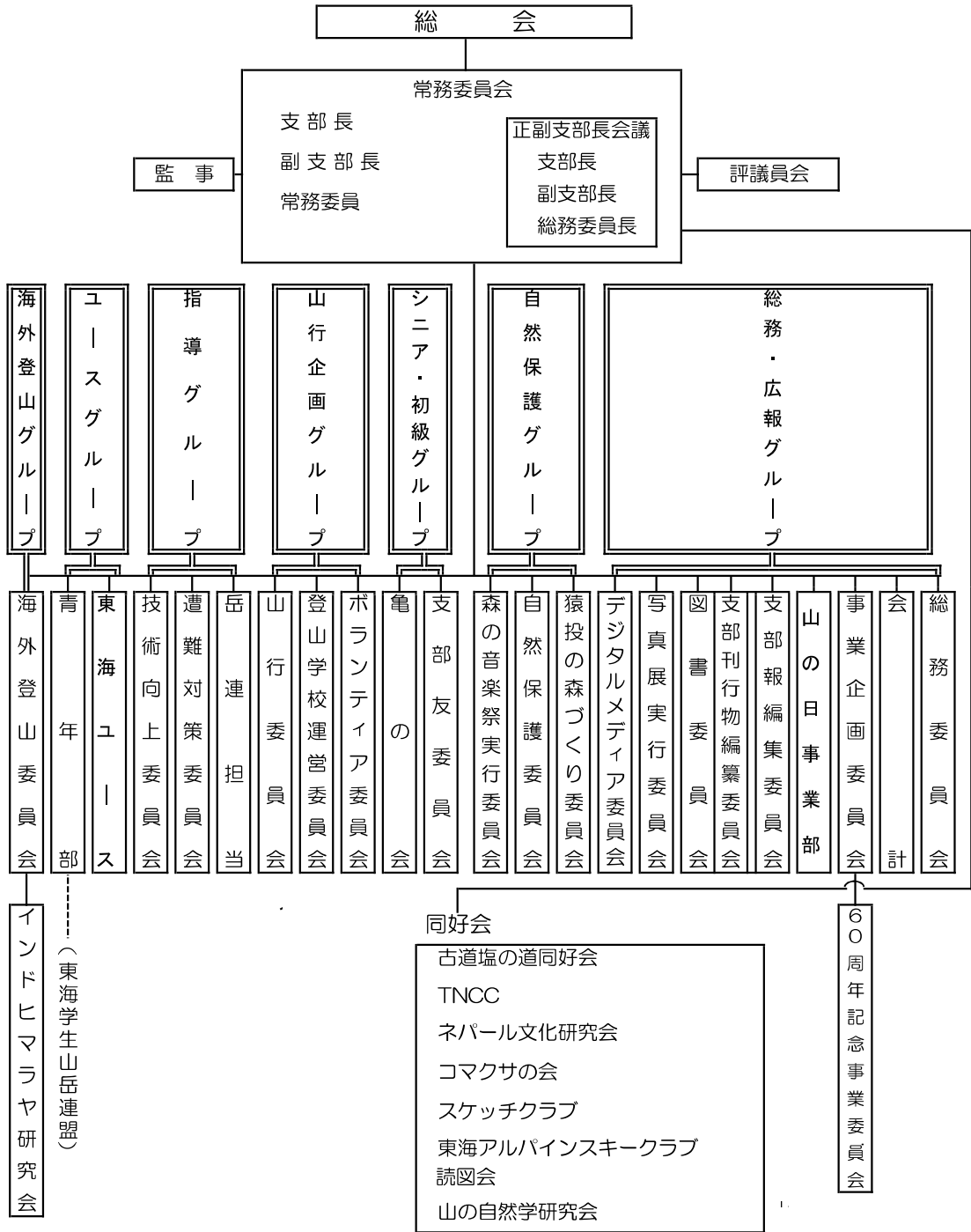
ボランティア委員会

2. 共益事業

随時	登山学校同窓会による自主山行	登山学校
随時	自主山行	青年部
5月	春山合宿	青年部
7月	小川山合宿	青年部
2月	冬山合宿	青年部
5月19日	支部通常総会	総務委員会
年6回（隔月）	支部友ミーティング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行	支部友会
年間55回程度	支部定例山行	山行委員会
毎月1回	亀の会定例山行	亀の会
随時	自主山行（日帰り＋宿泊山行）	亀の会
随時	歩こう会の実施	亀の会
随時	東海Youth 個人山行 と定例山行	東海Youth
随時	写真撮影山行	写真展実行委員会
1月（開催日未定）	支部新年懇親会（場所未定）	総務委員会

令和2年度 役員					
名誉支部員	石原國利				
支部長	高橋玲司				
副支部長	山田明美 佐野忠則 今津英一朗				
監事	和田豊司 天野倅明				
常任評議員	尾上 昇				
評議員	大口瑛司 杉田 博 箕浦靖夫 横田明信 梶田民雄 柴田清康 沖 允人 野呂邦彦 小川 務 片岡康彦				
常務委員会	委員長	常務委員会	委員長		
総務委員会	今津英一朗	登山学校運営委員会	榊 将美		
会計	市川義行	登山学校	高橋玲司(校長)		
岳連担当	鈴木愛子	自然保護委員会	井藤恵美子		
支部友委員会	金谷正起	図書委員会	石田文男		
山行委員会	鈴木慎吾	海外登山委員会	高橋玲司		
亀の会	加藤守彦	ボランティア委員会	前田隆久		
猿投の森づくりの会	和田豊司（代表）	支部刊行物編集委員会	星 一男		
東海ユース	服田康弘	遭難対策委員会	山田明美		
60周年記念事業	尾上 昇	技術向上委員会	清水克宏		
「山の日」事業本部	佐野忠則（本部長）	写真展実行委員会	坂本 孝		
播隆祭小委員会	尾上 昇	森の音楽祭実行委員会	未定		
支部報編集委員会	星 一男	デジタルメディア委員会	井上寛之		
青年部	荒木 岳	東海学生山岳連盟	草野駿希		

公益社団法人日本山岳会東海支部
令和2年度組織図



- ・正副支部長会議はチャレンジ基金等の用途を含めた支部業務全般の調整を行う。
- ・山岳救助隊は必要に応じて設置される

東海支部 登山学校第4期開校

登山学校運営委員会委員長 榊 將美

I) 同窓会の発足

登山学校は3年をもって卒業する制度を採っています。今年は37名が晴れの第1期満期卒業を果たされました。3年間初級教室で「基本の基」を習得された方、初級教室から中級教室へ進み「目指す山に登れるようになる」を意識した方、初級教室～中級教室～上級教室へと進み「技術向上」を目指した方、それぞれに確たる目標を持って受講をしていただきました。成果の一つとして卒業生の中から次期指導員が5名誕生し、第4期登山学校の指導補助をしていただきます。また、登山学校の目的の一つである支部活動への参加を促す支部員転籍には17名の方々が応じていただきました。(現支部員、支部友有効期間継続の方々を除きます) 第3期修了証交付者は、初級教室21名(交付率91%)、中級教室28名(交付率87%)、上級教室8名(交付率100%)でした。

そこで、令和2年7月から登山学校卒業生を対象とした「登山学校同窓会」を発足させます。入会金・年会費は不要です。目的は登山学校修了者相互の親睦を図るとともに、東海支部の活動を継続的に支援することです。また登山学校の目標である「自立した登山者」実現のため、同窓会主催のイベント企画や自主的な山行を実行していきます。例えば別々の登山口から登るクロス登山、花鑑賞ハイキ

ング、ロングトレールを回数分けて歩く、同日一斉登山、キャンプファイヤーを楽しむ山行、島の山旅、読図山行、ロープワーク練習山行 等々を企画します。

II) 第4期登山学校

継続して初級教室、中級教室、上級教室の3教室とします。初級教室および中級教室は各クラス指導員3名体制とし、よりマンツーマン指導に近い態勢にします。各教室要領は、

初級教室：日帰り山行を基本とします。①正しい歩き方ができる。②山でのルール、マナーを理解し実践できる。③山行中、地図を見る習慣を身に付ける。④地図からコースタイムを算出し計画書が作成できる。⑤積雪期は軽アイゼンを使用します。

中級教室：日帰り山行+無雪期テント泊を基本とします。①初級の学習内容が身につけている。②読図に関する十分な知識を身につけている。③正しいテント設営と撤収、テント生活ができる。④S Lの役割が出来る。⑤積雪期は10～12本爪アイゼンを使用します。

上級教室：1泊2日山行+積雪期テント泊。①ロープワーク、岩登りの基礎を学ぶ。②ピッケル、アイゼンワークの基礎を学ぶ。③雪上テント泊を体験する。④積雪期はピッケル、アイゼンを使用する。⑤C L・S Lの役割が出来る。 とします。

〈第4期研修日程〉

月	内容	初級教室	中級教室	上級教室
7月	行事	7月18日(土)10:00～第3期修了式 13:00～入学式		
	机上講習	16:00～18:00「夏山の気象」		
	現地講習	足並み周知山行(各クラスで適時対応)		
8月	机上講習	8月22日(土)10:00～12:00 「登山の基礎知識」		
	現地講習	8月23日(日)	8月30日(日)	8月29日(土) ～30日(日)
9月	机上講習	9月12日(土)10:00～12:00		
		「読図 基礎編」		

月	内容	初級教室	中級教室	上級教室
9月	現地講習	9月13日(日)	9月13日(日)	9月26日(土) ～27日(日)
10月	机上講習	10月24日(土)10:00～12:00 「登山計画書の作り方」		
	現地講習	10月10日(土)～11日(日) 朝明ミーティング		
11月	机上講習①	11月7日(土)10:00～12:00「読図実践編」		
	机上講習②	11月28日(土)10:00～12:00「冬山装備」		
	現地講習	11月8日(日)	11月8日(日)	11月14日(土)
12月	机上講習	12月12日(土)15:00～17:00「冬山の気象」		
	現地講習	12月19日(土)	12月6日(日)	12月26日(土) ～27日(日)
	行事	12月8日(火)19:00～ 忘年会(予定)		
1月	現地講習	1月16日(土)	1月24日(日)	1月23日(土) ～24日(日)
2月	現地講習	2月6日(土)	2月21日(日)	2月20日(土) ～21日(日)
3月	現地講習	3月13日(土)	3月7日(日)	3月6日(土) ～7日(日)
4月	現地講習	4月17日(土)	4月24日(土) ～25日(日)	4月10日(土) ～11日(日)
5月	現地講習	5月29日(土)	5月22日(土) ～23日(日)	5月22日(土) ～23日(日)
6月	行事	6月12日(土) 終了式		
	現地講習	6月19日(土)	6月19日(土) ～20日(日)	未定
		卒業山行(受講生企画)		

第4期登山学校は引き続き「自立した登山者」になることを目指します。登山学校はチームで学びます。登山学校は同じ思いの人たちと一緒に学び、一緒に山を登り、更なる登山の知識・技術を習得することができる最高の機

関です。クラスメンバーがお互いを思いやり、自発的なチームビルディング作りこそが「自立した登山者」への第一歩と考えています。

追 悼

追悼 一柳政右エ門(イチリュウ)さん

大口瑛司

一柳さんが亡くなった。一柳さんと言っても東海支部ではほとんどの人が知らないだろう。東海支部の会合に姿を見かけることは殆どなかったから。

今日まで、東海支部の設立当時のメンバーで残っているのは福岡県在住の石原國利さんと私の二人だけだと思い込んでいた。ところ



が奥様からの訃報に「・・・会費の未納がありましたら知らせて下さい」とのことでしたので驚いて最新の会員名簿を見ると「5182 一柳政右エ門」と載っていた。会員番号は私と1番違いである。

一柳さんは、私より6才年上の名古屋山岳会の大先輩であり、名古屋山岳会を通じてのことしか私は知識を持ち合わせていない。名古屋山岳会の仲間内では音読みで「イチリュウ」の愛称で呼んでいた。私たち後輩はみんな「イチリュウさん」と「さん」付けで呼んでいた。記録を見ると「イチリュウさん」は昭和5年5月5日生で、珍しい5が続く。「端午の節句」が誕生日である。

名古屋山岳会に入会したのは昭和28年で、海外登山で大活躍した「ドンちゃん」（故加藤幸彦）と揃ってである。二人とも瀬戸在住で東海高校の先輩後輩の間柄であった。一緒に名古屋山岳会へ「入会申し込みに行ったらゴロちゃん（故大和幹夫、元愛知岳連会長・駅前アルプス創業者）から『お前さん達はまだ早い』と言って2年間も待たされた」とよくこぼしていた。

名古屋山岳会はフランクな会で他にそのような厳しい話は聞いたことがない。「イチリュウさん」は愛知大学の学生、「ドンちゃん」は東海高校の生徒であったからと思うが、気難しい大和さんでは相手が悪かった。

名簿にある一柳政右エ門とは今時いかにも古めかしい。昭和30年代にまだ若いのに家業の一柳理化学磁器製作所を名実ともに継ぐために『一柳敏正』から『一柳政右エ門』に襲名されたのである。改姓のため市役所へ行くと「若いのにどうしてこんな古めかし名前に変えるのだ」と言われたそうだ。

イチリュウさんは温厚で怒ったところは見ることがない。誠実でそのうえ人が良い。ある夏、御在所岳でのトレーニング山行の帰りに名古屋駅で誰かが「おい！イチリュウ、姉さん所に行ってビール代貰ってこい」とけしかけた。

当時は余裕のない時代で、山行帰りにピアガーデンは憧れでしかなかった。そのお姉さんは名の知れた服飾デザイナーで、名古屋駅前のビルの1階に洋装店を構えてみえた。そんな事情を知っている仲間がいたからだ。地

下街もない頃で、ザック背負った5、6人の山男が階段の踊り場から交渉の成り行き見降ろしている。当然下からも山男たちが見える。これではお姉さんもおさない訳にはいかなかったと思う。お陰で私も、屋上のピヤガーデンで「イチリュウさん」姉弟に申し訳ないと思いつつ、美味しい生ビールで乾杯させてもらった。

私が名古屋山岳会に入会したころ「イチリュウさん」から「山ノ内のピッケルを注文したが1年待ちだと言われたがまだ来ない」と聞いた。当時、仙台・山ノ内のピッケルは高価なうえ、極めて入手が困難で我々には手の出ない代物であった。さすが瀬戸の名家の人であると思った。

瀬戸からでは毎週の集会にはほとんど出席されなかったが、トレーニング山行や合宿にはしっかり参加されていた。

38豪雪（昭和38年）の時はあちこちで遭難が相次いだ。我々も豪雪の中、明神から上高地まで必死のラッセルで4時間も要した年だった。愛大の遭難は悲惨だった。薬師岳で冬山合宿中の愛大山岳部員13名全員が死亡するという痛ましい事故である。

愛大の一運動部の事故にしては学長が辞任するという事態にまでなった。薬師岳の遭難は大きな社会問題にもなり、マスコミの報道合戦も続いて関係者は大変であった。取り分け一柳さんは愛大山岳部の監督としてその対応と事後処理に大変なご苦勞をされた。それらのことは余り口にされなかったが、後で「人生観が変わった」と言っていたと奥様から伺った。家業の重責もあり、事の重大性と責任からその心労は並み大抵ではなかったと思われる。

久しくご無沙汰していたので、猿投の森の帰りに立ち寄った時は「腰が痛い」と座ったままの姿勢だった。脊椎管狭窄症でその後訪れる度に悪化していた。5年ほど前『名古屋山岳会々史』を届けに伺った折は奥様が「出て来なくてもいい」と言われるのに、わざわざ壁伝いに玄関まで出て来られた。

誠実で優しい人望のある人だった。

令和2年3月11日逝去 享年91歳

東海岳人列伝(15)

～忘れられた伊藤孝一を世に出した

名うてのカメラマン・上田竹三～

編集委員 西山秀夫

このほど日本山岳会会員の五十嶋一晃氏が『類例のない伊藤孝一の登山』を上梓した。五十嶋氏は北アルプスの太郎平小屋のオーナーである五十嶋博文氏の実兄である。本書は過去の伊藤孝一に関する著書、論考、研究などを網羅的に挙げながら細部に亘り事実とことなる点を指摘した労作である。

この中に『山岳』第68年（1974・昭和49年4月刊）に、名古屋在住の元大阪毎日新聞社名古屋支局写真部長・日本報道写真連盟理事で中京山岳会会員の上田竹三氏が「伊藤孝一氏の足跡」と題して伊藤氏の登山とその山行を撮影した経緯を発表した。と紹介されている。

2018年の拙稿「黒部の山と人を愛した伊藤孝一伝」から関係部分を転載すると

「立山博物館の作品紹介を転載。

「雪の立山、針ノ木越え」（1923年3月）

「雪の薬師、槍越え」1923-24（大正12-13）年、伊藤孝一隊撮影。構成・編集：羽田栄治、ナレーション：児玉清。

「伊藤孝一は、大正12年11月から翌13年の4月にかけて3度の雪山行を企て、上ノ岳冬期初登頂、薬師岳厳冬期初登頂を果たし、越中から奥黒部領域を踏破して黒部五郎・三俣蓮華・鷲羽の頂を踏み、槍ヶ岳に到達する（積雪期初縦走）。この山行の映画記録は未編集のまま信州有明の赤沼家に残置されたが、昭和40年に名古屋の報道カメラマン上田竹三（筆者注：大阪毎日新聞社名古屋支局写真部長、中京山岳会会員）によって見出される。」

上田竹三が名古屋市の人であり戦後、忘れられていた伊藤孝一の山岳映画のフィルムを見出した功労者であることが確認されたことで、当列伝に並べるにふさわしいとして書き残すこととした。

但し、上田竹三に関する著作はなく、唯一の資料は『山と谷へー中京山岳会50年史』（昭和57年2月1日発行）だけであった。この中から上田竹三のイメージをつかんでいただければありがたい。

何時ものように上田竹三を検索してみた。すると上田竹翁がヒット。おや何故だろうと丁寧に字面を追うと脚注に「竹翁の息子・上田竹三（大阪毎日新聞社名古屋支局写真部長）」とある。つまり竹翁は父親である。それで竹翁はどんな人物か。



「冬の中崎尾根にて」
上田竹三氏



遠見尾根での仲間と上田氏

ウィキペディアには大変な趣味人であったことが書かれているがそこは割愛して「上田竹翁（うへだ ちくおう、本名：上田寅之助、箸尾寅之助、号：竹軒樂人、1866年（慶応2年）- 1941年（昭和16年））は、明治・大正・昭和期に活躍した文人。写真研究家。『藝術寫真』主幹、「コダック 研究会」幹事。」

「寅之助の興味は、喪われゆく同時代のものや古いものを、編纂し体系化して残そうとするところにあったものと思われる。」「1903年（明治36年）、（竹三からみて叔父の）上田貞治郎が創業した「上田写真機店」の社員となり、その出版・編集部門をおもに担当して、『写真要報』など、写真術に関する多くの書物を著わした。」とあり、ここで初めて

写真との出会いがある。竹三さんは父・竹翁（寅之助）の背中を見て育ったから失われゆくものへの哀惜の心を受け継いだ。そして写真技術も（叔父）から継承した。当時の第一級の写真一族だった。それが伊藤孝一が多額の経費をかけて撮影したはずの幻のフィルムの探求という業績につながったのは言うまでもないだろう。

しかし、上田竹三の核心に触れる記載はないものか、と尚も追うと、中京山岳会のHPに次の記載がヒット

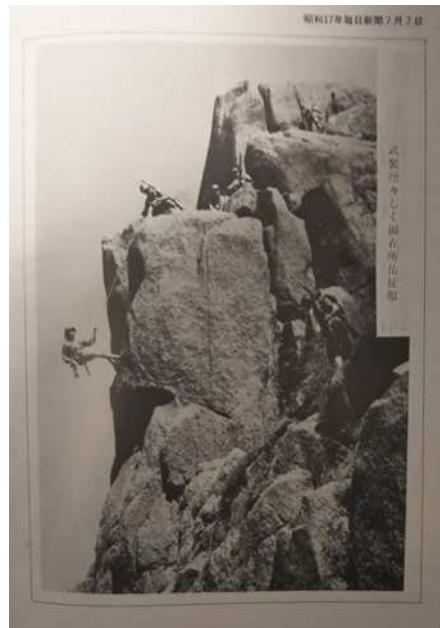
「終戦後の復活と愛知県山岳連盟の結成（昭和23年～）中略、昭和23年：創立以来の会員：大阪毎日新聞社名古屋支局写真部長上田竹三氏の呼びかけで熊沢友三郎氏他及び名古屋山岳会の跡部昌三氏などが中心となり連盟を結成する。以後昭和56年迄中京山岳会は山岳連盟の技術訓練指導、遭難対策、機関紙の編集、発行などの重責を果たす。」とあり、中京山岳会のみならず東海地方の山岳界をまとめる役割も果たしていた。竹三さんは人物的にもバランスがとれた人格者であったと思われる。

中京山岳会の創立は昭和13年～15年を創定期としているのは先駆する「ベルグロイテ」との合流があり、古い会の価値を重んじているのだろう。中心人物の熊沢友三郎氏は三菱重工の航空機部門の落下傘の縫製関係の仕事をしていたという。

毎日新聞のカメラマンだった上田竹三と中京山岳会の縁は、P253～の中京山岳会を語るという座談会（一回目は昭和48年5月）の中で自身がコメントしている。当時は新聞社が山岳会をバックアップした。朝日新聞は名古屋山岳会、毎日新聞は中京山岳会という棲み分けだった。中日新聞の前身の中部日本新聞は前身の名古屋新聞が中京山岳会、新愛知新聞は名古屋山岳会となった。

断片的に拾ってみると

・中京山岳会は前略、スポーツ界に活動していたジャーナリストの手によって組織された会です。近代登山の黎明期の雪山登山、氷壁、岩登りなどを新聞を通じて知らせた。会の中には毎日新聞社のカメラマンの上田竹三さんがおり、その教えを受けた平田増雄、鈴木義雄、青山茂（CBCカメラマン）、川口俊策、森



「武装凛々しく御在所岳征服」昭和17年藤内壁で

鉄兜に銃剣を持って登攀訓練

川篤志など山岳カメラマンが生まれました。（春日部薫、戦後は中日新聞社）

・上田さんは特に御岳の冬山遭難訓練の時に活躍されましたね。（川口俊策）

・御岳の遭難訓練なんかもそれですね。これは上田さんを通じて日本版と英文版の毎日新聞に報道されました。（川口）

ちょっと脱線するが、

・＜沖＞ところで、日本山岳会東海支部の隊でマカルーに行かれた※川口さんは、ご親戚だそうですね。

・＜川口＞兄貴の息子です。

・＜沖＞そうですか、血筋は争えませんか・・・。その頃、他に活躍していた会というのは・・・。

※筆者注

東海支部マカルー本隊（1970年）

原真（隊長）、市川章弘（登攀隊長）、田中元、尾崎祐一、松浦正司、尾上昇、※川口洋之助、後藤敏弘、吉原正勝、長谷川勝、橋本篤孝、越山将男、生田浩、浅見正夫、中世古直子、芹谷洋子、白旗史郎、谷久光

以上

中京山岳会が昭和23年に『鈴鹿の山』（中部日本新聞社）を出版できたのは、書き手はもちろん、ガイドブックに必須の写真の名手がいたからだと納得した。

同書にはコラムとして署名記事が多数転載されている。字が小さいために判読がしづら
いが、重要と思う記事を文字起こしてみた。
P3 「東海散歩」・・・東海登山小史・・・
昭和30年7月毎日新聞

日本登山史上最高の人出と伝えられた今年
の夏山シーズンも終わり、日本アルプスには
もう錦秋のいろどりが見られ始めた。賑わい
の夏山をじっと見送って名古屋に過ごしたこ
の夏、先人たちの登山をじっくり振り返って
みた。スポーツ登山として誕生した明治末期
から、私は信仰的な山岳宗教に基づく登山と、
それらの先達に導かれて聖なる山を求めて登
山した一般大衆と、職業的に奥山見廻り役と
して山々を駆け巡ったこれらの人たちが高山
に接して、この世ならぬ山岳風景に心を打た
れるとともに盛んな探求欲を満たした人たち
を思う。

遠く元和元年（1615年）徳川義直が尾張藩
巡見使として役人を木曾駒ヶ岳に登山させたり、
後年薬草採取のため登山を命じたり、天
保二年（1841年）飛騨高山の地役人山崎らを
大白川、白山に山地巡視に入山させたが、こ
れらの登山から大衆の支持を寄せたのは信仰
登山で、飛騨ゆかりの円空上人が元禄年間（1
688～1703年）岐阜県吉城郡の五岳練行したと
いう。笠ヶ岳には木彫りの大日如来を安置し、
高山宗猷寺（そうゆうじ）の南齋和尚（なんね
いおしょう）は『迦多賀嶽再興勸化帳』（文
政7年）をもち、天明二年（1872年）初登拝
し、乗鞍、御岳にも足跡を残している。木曾
御岳の王滝口の登山路を開いた普寛行者は寛
政四年（1793年）に入山し尾張春日井の覚明
行者が黒沢口を村人らとともに開いたのは天
明五年（1782年）であり、ともに今日御岳開
山の行者としてあがめられている。越中国富
山県下新川郡河内の念仏行者播隆上人は恵那
山、笠ヶ岳から槍ヶ岳の崇高な山容を望見し
て念仏修行を發願、文政元年（1826年）信州
から槍ヶ岳に初登山して後、美濃、尾張、三
河などを巡って、すき、くわなどの農具を集
め、それで槍ヶ岳頂上へ登るための鎖をつく
り、念仏講とともに文政十一年、再度入山し
て仏像三体を頂上に安置した。（播隆上人の
墓は美濃太田祐泉寺と揖斐町城台山一心寺に
ある）

明治中期、日本アルプスに登り、これを世
界に紹介した英人エドワード・ウェストンの
リリーフ像が上高地の岩壁にはめられ、ウェ
ストン祭が夏山開きの景物となって数十年。
昨今飛騨山岳人の手で播隆祭に夏山開きの行
事が行われるのは日本人として当然のことだ
ろう。

明治末期から大正にかけ、ようやく山の愛
好者が増え、名古屋に愛山会が創始せられた
のは明治末期で、北尾鎌之助氏（元毎日新聞
写真部長、当時名古屋新聞記者）を中心とし
て、柴山乙彦氏、中野重義氏、それに故人と
なった亀山半眠、三輪未央、早川芦生、小林
橘川氏らも参加して登山、文芸、演芸部門な
どももち、当時の名古屋文化活動に寄与した。
山岳家でないが中区の輸入商伊藤孝一氏は大
正五年ごろ、冬の立山、薬師、槍への縦走コ
ースを映画撮影のため立山や間山などに山小
屋を造り撮影したという。明治から大正にか
けて山に近い岳人も多いと思うが、風聞だけ
で資料が集まらない。

話は昭和十年に飛ぶ。名古屋市の鳥居体育
主事が予算の一部を名古屋山岳団体のために
支出され、昭和十一年に名古屋山岳連盟が発
足の運びとなった。名古屋山岳会の跡部昌三
氏やベルグロイテの平岩治郎氏、丹羽武夫氏、
熊沢友三郎氏らの手でいろいろな事業を手掛
けたり、鈴鹿藤内壁の足場として北谷道場が
完成したりしたのは昭和十四年末であった。
名岳連の技術担当に前記の跡部、熊沢両氏が
当たって名岳連会長として名高商山岳部長だ
った故村瀬圭氏を迎えた。とまれ、大正、昭
和初期に活躍したオールドタイマーが一步づ
つ積み重ねた地味な登山活動が、今日の山の
愛好者と登山技術を結実させたといえよう。

これらの当時の人たちも五十路の坂をはる
かに越えても未だに2、30キロのリュック
を背負い、冬夏を問わず山岳巡礼を続けてい
る。山への愛着を断ちがたく、昔の山の仲間
とも疎遠になりがちなので、今年の8月「やま
んば」の会（信州の方言で山彦の意）の発会
式をあげ、往年の山の猛者40人の会員を得た。
第一回山行の前奏曲を兼ね、きのう19日夜、
鈴鹿朝明溪谷マウントハウスの裏山で明日を
楽しみながら、若き日の苦しい山旅、楽しか
った山小屋の一夜を語り明かした。

(日本報道写真連盟理事・やまんば会長)
以上。

この文中にも伊藤孝一への関心がすでにあ
ったことが分かる。

海外登山の記録一覧表にも上田氏の名前が
ある。

昭和43年4月26日から5月2日

韓国・漢拏山 (ハンラサン)

担当は写真、肩書は会友とあり、年齢は64歳。
昭和43年は1968年。生まれは明治36 (1903)
年7月。昭和13年 (1938年) 時点では35歳にな
る。昭和22年の会報には「山岳写真」を寄稿。
昭和25年7月の毎日新聞には「播隆上人とウェ
ストン祭」と題して寄稿。写真のみならず山
岳史に通じた博学だった。山でも一書を残し
て欲しかった。

東海支部俳壇

西山秀夫

伊賀・霊山

いづくより鹿の呼ぶ声 霊山寺

近江・清滝山を歩く

近江から濃尾平野へ春の風

南アルプス前衛・清田山を歩く

登頂し霜解け道を意気やうやう

雪解川彼方赤石岳聳ゆ

春日や落葉松の森 梅の森

神岡町山之村から大鼠山

天体の植民地めく春の星

オリオンの冴え冴えと見し春の星

飛驒の山 たつぷりの雪 残りけり

山頂は太古の森や春の雪

春雷を三度聞くなり 飛驒の山

蚕霊山 (439m) へ猿投公園からサイクリング

初夏や山がちの道へダル踏む

自販機を見つけて先ずはソーダ水

ホトトギスカつては有りし小原村

夏川の川原賑わい煙揚がる

お須原山と茶臼山 (418m) 散策

ヤマツツジ一輪咲いて三角点

山村の空を写せる植田かな

どこで見ても群れて咲いてる ヤマボウシ

TOPICS 1

涸沢で斜面崩落 迫る土砂

松本市安曇などで震度3を観測した29日夜の地震の直後、北アルプス涸沢(松本市安曇)の山小屋「涸沢ヒュッテ」(標高約2300メートル)の従業員が、涸沢カールで斜面が崩落する様子を動画で撮った。前穂高岳北尾根などの斜面から、残雪や土砂、岩を巻き込みながら幾筋も流れていく様子が確認できる。

営業再開に向けた準備で滞在する支配人、小林剛さん(56)によると、横揺れが15秒ほど続いた。「岩が剥がれ、どんと雪の上に落ちる音がして外に出て撮影した」。土砂の一部はヒュッテまで20メートルほどに迫ったが、けが人や建物の被害はなかったという。

小林さんは、涸沢で今回のような規模の雪崩や土砂崩れを過去に見たことがない。

今季は残雪が少ないが、例年並みだったら小屋まで到達した可能性があるとみる。周辺の山小屋は新型コロナウイルスの影響で休業を続け、登山者がいなかったのが幸いとしつつ「下はコロナでこの辺は地震。踏んだり蹴ったり」と話した。

(5月31日付、信毎webより転載)

涸沢カールで地震発生直後に起きた斜面崩落。

涸沢ヒュッテ(右)近くまで迫った=29日午後7時すぎ、松本市安曇(涸沢ヒュッテ提供)



TOPICS 2

全国の山小屋の営業情報&交通機関の運休情報【6月12日更新】

<https://www.yamakei-online.com/journal/detail.php?id=5746> でチェックすると、対応はまちまちになります。大切なことはHPでよく調べて、予約してから行くことです。

各山城の山小屋事情は以下の通り。昨年とは様変わりしました。

特に重要なことは太字

- 1、登山中に事故が起きた場合、新型コロナウイルス関連の対応でひっ迫する医療現場等へ負荷を与えてしまう懸念があります。
- 2、**各山小屋のホームページで最新の営業情報をご確認ください。**
- 3、電話等で宿泊の予約をしてください。通常は予約なしで宿泊できる山小屋もありますが、人数制限を行なっている山小屋や、臨時休業をしている山小屋もあります。キャンセルも必ず連絡をしましょう。
- 4、マスク、アルコール除菌シートなどを持参しましょう。水が少ない山小屋もあります。
- 5、出発前に体調に不安がある、または発熱がある場合は、無理せず登山を中止しましょう。山小屋で体調不良になった場合は、山小屋のスタッフへすぐにお知らせください。

注意事項 特に重要なことは太字

- 1、宿泊人数を制限する。
- 2、大部屋ではグループごとの間隔を広げる。
- 3、**寝袋・インナーシュラフの持参を推奨する。**
- 4、食堂の座席の間隔を開ける、時間交代制にする、弁当に変更する。

北アルプス

2020年は休業：朝日小屋、北又小屋、内蔵助山荘、大日小屋、池ノ平小屋、笠ヶ岳山荘、

2020年7月から開業

上記以外は7/1以降まちまちに営業開始の予定

南アルプス

2020年は休業：北岳山荘、広河原山荘、白根御池小屋、長衛小屋、両俣小屋、北沢峠こもれび山荘、仙丈小屋、馬の背ヒュッテ、千枚小屋、荒川小屋、赤石小屋、小河内岳避難小屋、中岳避難小屋、赤石岳避難小屋、熊の平小屋、百間洞山の家、高山裏避難小屋、

樫島ロッジ、茶臼小屋、聖平小屋、横窪沢小屋、光小屋

2020年7月から開業：薬師岳小屋、南御室小屋、鳳凰小屋、夜叉神峠小屋、七丈小屋

八ヶ岳

2020年休業：権現小屋、赤岳頂上山荘、キレット小屋、ヒュッテ夏沢、

上記以外は営業中か、7月から開業予定

支部員Medicalだより

壊れた膝を修復するⅡ

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

第2話では壊れた膝がどうなっているかを話そう。

見苦しい写真で恐縮だが2020年2月2日に撮影した小生の足の曲がり具合を撮影したものである。



左膝



右膝

これはくつろいでいる写真ではなく精いっぱい曲げた膝の写真である。正座ができる人は足の踵がお尻に付く。赤線の角度で言えば10度から15度であろう。

小生の左ひざは30度(医者での表現は180-30=150度という)までしか曲げることができない。右膝は55度(医者では125度という)である。

この状態では山へ行って急な下りでは膝を曲げこむことができない。地下鉄の階段でも右

足を先に下ろし(膝を伸ばす)左膝を曲げて降りることを繰り返すことになる。ストックがあれば右足がこの程度曲がれば体重をストックにかけ前倒しで降りることができる。ストックが離せない理由である。

さらに言えば小生の足では近い将来左膝も右膝と同じ様に曲がらなくなる。すでにその兆候が出ている。

では膝の内部はどのようなになっているのだろうか。



正常な膝の関節
(矢印は軟骨) * 1



小生の右膝の関節

右膝関節の外側の間隔がほとんどなくなり、内側が開いているのが写真からよく読み取れる。0脚の原因だ。すでに半月板をほとんど除去しているため骨頭を覆う軟骨がすり減り骨頭が触れ合う。そのため痛みとなるのであろう。痛みのない人工関節に置き換えるしか治療方法がない。

IPS細胞の技術が進み軟骨再生が可能になるまでは。

膝の痛みとは関係ないが両膝下にしびれがある。これは脊柱管狭窄症。まだ手術するほど悪化していない。背骨もすり減り背が3cmほど低くなっている。老化現象はあちこちに現れている。

今回の報告はここまで。

- * 1 “患者さんの手引き”
人工関節置換手術「より快適な生活へ」
日本ストライカー(株)

60山ラリーお知らせと経過報告

60周年記念国内事業担当 **山田明美**

1. 60山ラリー期間延長のお知らせ

3～4月にかけて猛威を振るい、全国に緊急事態宣言を発令させた新型コロナウイルスも、GW明けから鎮静化し、中部近隣では5/15～緊急事態宣言が解除されました。が、まだ油断のできない日常が続いています。

コロナ禍拡大一途の3月～5月の期間、登山活動は否応なく制限され空白期間が生じました。この事態を受け、ラリー委員会では登山対象期間の延長を下記のように変更しましたので、お知らせいたします。

60山ラリー登山対象期間の変更
 変更前期間 2021年3月31日
 変更後期間 2021年9月30日
 *6ヶ月間延長します!!

2. 経過報告 (2020年5月25日現在)

5/25現在、登録者数は109名迄ふくれあがっており、皆さんそれぞれの山の楽しみ方でチャレンジされています。

今回経過報告では、コロナ禍で登頂数の伸びが鈍化しています。すでに6コースを達成され346座登頂された方も見えます。自粛要請が若干緩んだとはいえ県外移動の自粛要請などあり、登山には厳しい状況が続いています。しかし愛知県内の里山にも歴史のある山が多くあり、数にこだわらず名さえ知らなかった山々を巡る等それぞれの楽しみ方で、一人でも多くの方に登頂達成を目指して60山ラリーを楽しんでいただきたいと思います。

コース別達成者数及び登頂状況 (5/25 現在)

	コース別達成者					
100 高山	0名					
1等三角点	1名(栗木洋明)					
愛知県の山	6名(栗木洋明、前田隆久、石井 仁、前田芳子、熊谷美喜子、山田明美)					
岐阜県の山	2名(栗木洋明、遠藤 忍)					
三重県の山	2名(栗木洋明、山田明美)					
静岡県の山	1名(栗木洋明)					
チャレンジ	16名(栗木洋明、山田明美、石井 仁、前田隆久、鈴木 浩、遠藤 忍、前田芳子、熊谷美喜子、水野猛志、榊 将美、堀端静夫、光崎 晋、木村孝保、酒井大輔、中島美枝、伊与田玲子)					
	コース別登頂数ベスト5…()内数字は登頂数					
100 高山	鈴木愛子(33)	栗木洋明(27)	岡本英俊(12)	山田明美(11)	水野猛志(10)	
1等三角点	栗木洋明(64)	山田明美(43)	鈴木 浩(31)	石井 仁(20)	前田隆久(19)	
愛知県の山	栗木洋明(110)	前田隆久(87)	石井 仁(64)	前田芳子(63)	熊谷美喜子(61)	
岐阜県の山	栗木洋明(66)	遠藤 忍(61)	山田明美(60)	木村孝保(56)	酒井大輔(35)	
三重県の山	栗木洋明(69)	山田明美(60)	石井 仁(48)	堀端静夫(15)	橋本智江子(11)	
静岡県の山	栗木洋明(63)	石井 仁(46)	近藤政仁(12)	鬼頭則俊(8)	堀端静夫(5)	
チャレンジ	栗木洋明(346)	山田明美(203)	石井 仁(161)	前田隆久(117)	鈴木 浩(95)	

天王山～誕生山

伊藤 稔

令和2年2月1日に岐阜県美濃市にある天王山(587m)～誕生山(501.5m)を縦走しました。出発地点の大矢田神社(おやだじんじゃ)は、日光東照宮と同様に豪華な彫刻と派手な色彩で飾る様式が盛んに使われた江戸時代に建立された神社で、市内一の華麗さを誇る優秀な建築物です。

各部に精巧な彫刻と彩色を加えた豪華な本殿は、妻の梁を3人の力士で支え、その空間を東側面は鶴に乗る仙人、西側面は中国の張良(ちょうりょう)と黄石公(こうせきこう)の故事をとった図柄が美しい彫刻が見られます。

(出典：美濃市観光情報HPより)



満開のカタクリ

ます。継鹿尾山までは霊山が由来の山らしく、宗教色が濃く感じられる山を、花を探しながら鳥の声を聞きながらのゆったり登山です。聴き分けはできませんが、近くで鳴いている声を聴きながら歩くのはとても楽しいものです。小さいピークをいくつも抜けて鳩吹山へ向かいます。

鳩吹山は岩道が増え、小川、橋と変化のあるコースで継鹿尾山とはまた違った楽しみがあります。雨上がりで滑りやすい箇所もあり、初心者には緊張感のある歩行もあります。晴天ならばアルプスの眺望が楽しめるはずでしたが残念ながら一部が雲に阻まれてしまいました。また、次回のお楽しみです。

桜の季節には少し早かったものの、つぼみは膨らみ、全体がピンクに染まって見応えがありました。そして満開のカタクリ。カタクリ登山口の名前にも納得で、この時期絶対外せない登山口でしょう。

登山は本当にタイミングだと思います。今回はちょうど春の花が咲き始める時であり、新芽も雨あがりで輝き、いつにない表情が見えました。山にはその時の季節、天候などの条件でしか出会えない景色があり感動があります。その第1歩は山を選ぶ時に既に始まっているのではないのでしょうか？

60山ラリーはハードルが高そうで、なかなかエントリーできずにいました。しかし参加することで知らない山との出会いがあり、感動があります。リストを見ながら次の山を考えるのも至福の時です。著名な山から名前も知らなかった山まで、期間の終了まで1座でも多く登り、感動に出会いたいと思います。



誕生山のテラスにて

敷地内に3,000本のヤマモミジがあり、県下でも有数の紅葉の名所です。

天王山(587m)～誕生山(501.5m)縦走山行は、天候に恵まれ小春日和登山でした。登山道は、間違えやすいポイントに標識があり、ほぼルート間違えず登山できます。誕生山のテラスからの眺めは、最高です。

登山ルート：大矢田神社駐車場 [138m0℃] (8:00)～大もみじ [389m] (8:53)～天王山 [587m6℃] (9:25/9:40)～白山 [450m] (10:32)～誕生山 [501.5m] (11:17/12:00)～J Aめぐみの [108m] (12:55)～大矢田神社駐車場(13:45)

継鹿尾山・鳩吹山

山田しのぶ

継鹿尾山、鳩吹山は人気のある2座です。3月、ルートの多いこの山の寂光院～カタクリ登山口で2座を登頂してきました。

寂光院の階段を上り、登山スタート。寂光院では有名な信長ビュー。木曾川の絶景が見渡せ

委員会報告

【山行委員会】

委員会活動でのお願い

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大による「緊急事態宣言」の発出により、3月から5月にかけてすべての支部山行が中止になってしまい、会員の皆様にはご迷惑をおかけしました。その後の国民の自粛努力により、5月末からはその緊急事態宣言も解除され、徐々に山行の出来る環境になってきました。現在では県をまたぐ移動も可能になりました。しかしながら、ウィルス感染の危険性が完全に去った訳ではありません。今後の社会生活においては、感染しないように、また他人に感染させないようにする「新しい生活様式」が望まれています。

このような状況の中において、山登りの在り方も、今までとは違った様式に変化していくものと思われれます。例えば、多人数で行く山行が出来なくなったり、山小屋の宿泊も完全予約制になったりと変化をしていきます。それに合わせて、当支部主催の山行も今後変化していくことが予想されます。会員の皆様におかれましては、これらの諸事情をご理解されて、今後の支部山行にご参加いただきますようお願いいたします。

山行委員会委員長 鈴木慎吾

【遭難対策委員会】

最近、近郊の山で道迷い遭難事故が発生しています。幸い、捜索中のヘリコプターによって発見されました。この事例の場合、下山遅れの一報を受け、捜索救助隊の立ち上げ準備をする

傍ら『行き先不明』という壁が出てきました。連絡して頂いた方、家族に確認するも『どこの山へ』『どのコース』といった捜索に必要な基本的情報が皆無!!でした。支部への登山届及び留守電による登録ともになく、それ以上に残念だったのが家族にも知らされていなかったことです。

今回、登山地推定には家族の“60山ラリー”とつぶやかれた一言からでした。幸運(まぐれですが)にも、登山口駐車場で車を発見し迅速な捜索救助活動に入ることが出来ました。このようなケースは『まぐれ』であり、2度と望めそうにありません。

近郊の山では同様な事故が毎年数件発生しており、いずれも高い確率で死に至っております。低山だからと言わず、自分の身は自分で守るということを強く意識して登山に出掛けてください。多くの方はブレーキとなる大きな障害に出会っていません。いいかえれば順調かつ平穏な登山を続けてこられた。この場合決定的に欠けているものとして、イレギュラーバウンドに対する俊敏な対処能力、要するに一種の危機的管理能力が弱い事であります。

先に述べましたが、捜索救助活動に際して行き先不明という壁がありました。家族も知らないというような恥ずべき登山は東海支部関係者として厳に慎んでいただきたい。登山計画書を作成し届け出るということは、自分が最初に行うセルフレスキューだと認識し、自分を守る行動を最初の一步として下さい。

遭難対策委員会委員長 山田明美

登山計画書作成と提出(届け出)を!!

東海支部には計画書提出(届け出)についての取り決めがあります(東海ガイド2019参照)

提出方法

1. メールによる提出→ 計画書、リスクチェック表、歩行ルートを記した地形図を電子ファイルとして添付する。
送付先アドレス・・・jactokai103@gmail.com
2. FAXによる提出→ 計画書、リスクチェック表、歩行ルートを記した地形図をFAX送信する。
3. 留守番電話による提出→ 思いつき登山、登山中のコース変更などの利用が望ましい。

提出先

登山地管轄県警 or 所轄警察、緊急連絡先、家族、メンバー



東海支部の蔵書からの一冊②④

図書委員会委員長 石田文男

『評伝今西錦司』 著者・本田靖春

この本の紹介を思いたったことを幾つか。私が40年以上、断片的に接してきた今西錦司の数多の本ではあるが、長らくこれらから本人と各著書の全体像の概略すら把握するのは難題・不可能とも思っていた。そこへこの本に出会い改めて今西本を手にしてみると、今まで断片的で掴み難かった全体像といかに巨人であったかが一つ一つ附におちていくものであった。

序では《吉良氏の弔辞に耳を傾けながら、私は改めて今西錦司氏の偉大さを思った。・ ・ ・ 京都一中時代に登山の魅力にとりつかれた今西氏は三校・京大時代を通じてアルピニズムの第一線に加わり、剣岳源治郎尾根や三ノ窓チンネの初登攀などで登山家としての名を上げる。・ ・ ・ 「パイオニア・ワーク」標榜する氏は、・ ・ ・ ヒマラヤの巨峰に目を向けた。日本山岳会隊によるマナスル初登頂の道を拓いた。・ ・ ・ この間、いくつもの学術調査を経て北部大興安嶺縦断の学術探検を成功に導いている。これは世界的に言って、地理的空白地帯を埋める古典的探検の尾を飾るもの。》

この後半では「1500山」登頂の流れに触れている。《・ ・ ・ 最初の山は13歳のときの愛宕山、それ以来長い人生で登り続けられた日本の山は1552にのぼる・ ・ ・ 。66歳で目標の500に達し、10年後の8月に大峰山系・釈迦ヶ岳で1000山を記録。・ ・ ・ 84年1月、宮崎県の高千穂を登り「1400山のしおり」を出している。5年5ヶ月の間に400もの山を登るのは並みだいていのではない。・ ・ ・ 60代後半に緑内障で右眼を失明して・ ・ ・ 左眼もかなり不自由に・ ・ ・ 、また上が250という高血圧も抱えていた。・ ・ ・ 氏はまだ踏んでいない三角点を求め続けた。そして、1985年11月、奈良県の白髪岳で一時は不可能と思われた1500山を成就・ ・ ・ 》そして《吉良氏の弔辞の中にあつた「今西さんの登山と山岳研究は不可分」という言葉を私は改めて反芻していた》と、この序を結んでいる。



本書は月刊誌『山と溪谷』に15回にわたり連載された「今西錦司 自然を闊歩した巨人」をまとめたものである。構成は11章だが、どこから読み始めても引き込まれていく。各章はその題を想起させるように「時の動きと成立ち、人との関わり」などを連綿と語り、一つ一つが繋がっていくのは、個々に読んでいるのとはまた違う感覚のみ込みであった。

例えば第2章の「自由の精神」のこんな一節に興味惹かれる。《1925年今西は京大へ進学するのだが理学部を選ぶか、それとも農学部へ行くかで迷っていた・ ・ ・ 。「・ ・ ・ しかし、最終的に迷っていた私を農学部へ決心させたのは山登りだった」と述べている。・ ・ ・ そのとき今西は大学最初の夏休みに、まだだれも登っていない剣岳の源次郎尾根を狙うことに決めていたから。・ ・ ・ 実習しているあいだに、だれかに初登頂されてしまつては取り返しがつかない。そう考えた彼は・ ・ ・ 理学部へと傾いていた気持ちを立て直し、・ ・ ・ 農林生物科に入学、昆虫学を専攻・ ・ ・ 》。こんなくだりがそうである。その後は「カゲロウの棲み分け」から今西進化論を打ち立て、初登山を理念に邁進、探検家としての道をいくのである。

巻末に紹介されている主な参考文献は「今西錦司編著書」32冊(今西錦司全集全10巻を1冊にみて)、「関連図書」29冊、「その他季刊

誌」多数だが、その量に驚く。まず、この全てに目を通して行くことだけでも。

編著書のいくつかを拾ってみる。『山岳省察』(1940年)、『生物の世界』、『山と探検』、『カラコラム—探検の記録』、『日本山岳研究』、『私の進化論』、『そこに山がある』、『進化とは何か』、『ダーウィン論』、『一千山のしおり』、『主体性の進化論』、『自然学の提唱』、『一五〇〇山のしおり』、『自然学の展開』、『ヒマラヤへの道』、『大興安嶺探検—1942年探検隊報告』……。この中には名著と言われているのが多数ある。
《・・・この世を思いのままに生きた人物が

現にいたという事実の重みであり、その貴重さである。しかも、ただ単に思いのままに生きたわけではない。・・・数々の輝かしい業績を積み、多くのすぐれた人材を輩出した》。これは「あとがき」の一説だが現在、数多の人材の活躍・功績は計り知れないだろう。

支部の蔵書にある「関連の書」に触れるのも、いつか自らの山の糧になりはしないだろうか。

私はこの書を改めて読み通してみても、今西錦司像が些か俯瞰できたことに嬉しく思えた。
B5判 382頁 発行：1992年12月
発行所：(株)山と溪谷社

会員の広場

同好会コーナー

東海支部員が有意義なクラブライフを享受するための組織として活動する同好会の活動を紹介するコーナーです。

読図同好会 園田さえ子

中津川・前山の南西の沢廻行記録

山行日：2019年10月27日(日) 晴

流域・山名：木曾川流域・前山南西の沢

コース：中津川手賀野479m(8:00)より前山西方980mピークを目指して

歩行時間 8:35~13:40 (5時間強)

各地点でのメンバーのつぶやきで地形や山行の様子を想像してください。(地図参照)

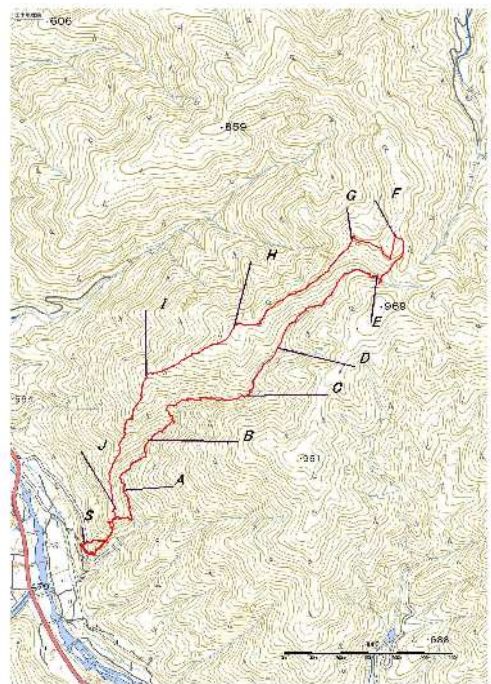
S 地点500m(8:35)~尾根~A 沢590m(9:05)

♪：取り付き点を探すのは難しかった。Aに向かうまでのトラバース道を探すのは難しかった。／b：入溪手前の尾根・急登を登りすぎたと思う。もう少し手前で沢に向かった方が良い。／#：下山してきた登山者に取り付き地点を聞いて良かったこと、尾根に赤布を付けたことは帰りの時短になったね。／\$：登山口を見つけるのは難しい。トラバースの距離100mは長く感じた。／ε：崖にはセメントがびっしりと付けられ、堰堤にも近づくことは難しかった。結果的には堰堤の上50mは滝になっていて入溪地点をAに設定してよかった。

A~B 650m二俣(9:32) 滝~

C 790m二俣(10:34)

♪：B付近に予想した滝があり、その先にもいくつか滝があった。滝を巻いたが、岩を回り込



まなければいけなかった、急な斜面で怖かった。いくつか巻いた後は緩やかで歩くのが楽だった。／b：滝が数カ所あり地図ではわからなかった。／#：1~2mの滝が多く、滝を巻くにも斜面の土が柔らかいうえに枯れて手掛かりにならない木が多かったので、沢の遡上1/3も行かないのに疲労した。特にB地点C地点770m付近の東に曲がる辺りは兩岸の斜面が迫り、沢の岩

も滑りやすいので緊張した。そのまま沢をあきらめ尾根に上がりた欲望にかられた。／§：距離350mを27分で歩く。倒木が多い。／£：釜は高巻き。凸状の岩肌は滑るかどうか確認した。**C～D 830m二俣(10：55)**

♪：C付近に予想の滝あり。／§：尾根が両側から迫り、沢は小滝が連続した。

D～E 895m二俣(11：13)～左俣～

F 980mピーク(11：32/12：02昼食)

♪：東に方向が変わる辺りではずっとコンパスを見ていた。だが、コンパスを見てなくてもわかりやすかった。／#：両側が広くなり、F地点のピークへは藪もなく快適。／§：岩が滑りやすい。水のない沢筋に沿ってFのピークへ。藪は薄い。ホッ／¢：滝がなくなって平らになり歩きやすくなった。EからFまでは藪が枯れていて藪漕ぎが無かったことが嬉しかった。

F～G 西方痩せ尾根950m(12：20)

♪：昼食の後、違う方向に皆が歩きだし、自分の考えが違っていたのかなと思い、自信を持って意見できなかった。しかし、結果的には自分の考えと合っていた。／#：Fは広いピークで下山路の見極めは慎重を期さねばならない地点だった。地点FからGへの痩せ尾根はピークから見て思ったより右寄りに感じられた。／§：昼食後は方向の確認が疎かになった。反省。歩きやすい方へ進んでしまった。／¢：FからGへの尾根を下る時、少し広い尾根を南に下ってしまい、西の尾根を探すことができなかった。10m位下れば尾根に出ると思い込んでいた。原因はFの時点で磁石か目視で方向を確認しなかったことだ。)

G～H 890mハート型台地(12：37)～I 790m(12：48)～J 620mピーク(13：18)

♪：藪もなく見通しが効き尾根もはっきりしており、また、ピンクテープが所々にあり、わかりやすく歩きやすかった。／#：H地点は判りやすくI地点からJ地点までは踏み跡があったり無かったり。時には急降下。大きな尾根だった。／§：GからH600mの距離。尾根が狭い。H～I～J道を探しながら進んだ。／£：H地点から出る3本の尾根ははっきりして真ん中を進んだ。)

J～goal 地点500m(13：40)

♪：上りに歩いた道ではあった。行きにつけた赤布は見つかったが、その後、向かう方向が良

くわからなくなって後ろからついていくだけになってしまった。／#：尾根の終わりは金網で覆われ下れなかったが、それは登る前に下から見ていたので良かった。／§：尾根の予定だったが西側へ下りる。)

その他、感想です。

♪：Bから滝を巻いた時から怖くて、その先がもっと怖くなるのではと尾根に上がりたかったが、その先は、平穏な道であり、地図だけで歩く道を想像するのはかなり難しいと思った。
b：各地点で方向確認ができ、読図通りに登山ができ達成感があった。

#：沢じまいだったのかそうでなかったのか微妙だったが、確実に季節の変わり目だった。

§：時間配分はかなり正確だった。各地点で現在地の確認ができたのが良かった。

£：10月の下旬は水が冷たい？まだ熊が出そう？と心配はしたが里山だったので思い切って進めた。また、立ち止まって地図による確認事項が多くなることを考えると、5時間ぐらいの歩行時間が読図にはちょうどよいかと思っ

た。
前回よりは「一歩進んだかな」と振り返りながら、座学をやって実践しているのですが、長い時間をかけて山歩きをしていると、「疲労や関心ごと」で読図をうっかり忘れてしまう事が度々あります。危険かなと思う時は集中しますが、「自然とのふれあい」も大切なので楽しみながらやっています。

古道塩の道同行会

山中光子

飯田街道の旧道を探す活動を始めている。昨年9月に久屋大通のテレビ塔付近の旧駿河町をスタート地点とし、飯田街道の探索活動は、月1回のペースで歩き、八事を越え日進市の赤池行ったが、3月以降は活動を自粛していた。7月より再開する予定である。スタートからの詳細は次号から報告する予定である。



支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和2年10月~12月分)
締め切りは各山行日の1ヶ月前です。

- 10月17日(土) ☆
山域: 奥美濃 山名: 三周ヶ岳・夜叉が池山
リーダー: 高松信治
- 10月31日(土) ☆
山域: 紀勢 山名: 姫越山
リーダー: 金谷正起

- 11月7日(土) ☆
山域: 段戸山地 山名: 寧比曾岳
リーダー: 榊 将美
- 11月14日(土) ☆
山域: 滋賀湖北 山名: 横山岳(西峰)
リーダー: 田中 進
- 11月14日(土) ☆
山域: 伊那山脈 山名: 鬼面山
リーダー: 水野猛志
- 11月15日(日) ☆
山域: 奥美濃 山名: 能郷白山
リーダー: 今津英一朗
- 11月28日(土) ☆
山域: 東紀州 山名: 天狗倉山・便石山
リーダー: 高松信治

- 12月5日(土) ☆
山域: 岐阜 山名: 百々ヶ峰
リーダー: 水野猛志
- 12月5日(土) ☆ ☆
山域: 鈴鹿 山名: 藤原岳
リーダー: 磯部 隆
- 12月12日(土) ☆
山域: 鈴鹿 山名: 竜ヶ岳
リーダー: 今津英一朗
- 12月12日(土) ☆
山域: 瀬戸 山名: 猿投山
リーダー: 尾上 昇

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、
各山行リーダーが示す方法で申し込む。

- ・締切日 原則山行日1ヶ月前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各

- 山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

- 「予定」
- ① 第41回「朝明ミーティング」
支部友会のメインイベント
日時: 10月10日(土)~11日(日)
場所: 朝明ヒュッテ
- 1日目 午前机上講習 午後実技講習 夕食
バーベキュー・キャンプファイヤー懇親会
- 2日目 分散登山(鈴鹿連峰)
- ② 第42回「忘年会・新入会員歓迎会」
一年間を振り返り、山の思い出を語り親睦を
深め合います。
日時: 12月8日(火) 19:00~21:00
場所: レストランリビエール
(セントヒサヤビル10F) 名古屋テレビ塔前
会費: 3,500円(ビール乾杯程度付き)

支部友会員数 令和2年3月末現在 80名

リーダー連絡先

- 尾上 昇 FAX: 052-832-3878
メール: onoe@onoe.co.jp
- 榊 将美 携帯: 090-7237-4410
メール: m.sakaki@minds-consulting.jp
- 金谷正起 携帯: 090-9931-3600
メール: kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
- 村瀬恭平 携帯: 090-4186-9876
メール: hoshizakari@ezweb.ne.jp
- 田中 進 携帯: 090-9191-8666
メール: t-susumu@peace.ocn.ne.jp
- 今津英一朗 携帯: 090-2616-7549
メール: imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp
- 磯部 隆 携帯: 090-9180-7245
メール: takass@yk.commufa.jp
- 松本陽子 携帯: 090-7859-4031
メール: yo-kom@nifty.com
- 高松信治 携帯: 090-3156-5268
メール: takama2nobu3@yk.commufa.jp
- 水野猛志 携帯: 090-5866-3781
メール: r34668@bma.biglobe.ne.jp

会 務 報 告

【2020年3月常務委員会】

開催日時：3月25日(水)午後7時～8時10分

1. 支部長挨拶(高橋)：コロナ感染が収まらない中、山岳会の行事・講演会・委員会が中止、写真展は延期となっているが、会議並びにイベントの実施の可否は各委員長の判断に沿って決めて頂きたい。実施の際は適切な予防策をとって進めてほしい。この時期の活動への参加は会員の意思を尊重してほしい。又5月の総会の際は出席者も委任状の提出をしてほしい旨の依頼をする旨報告があった。
2. 医療関係の会社から東海支部60周年記念行事援助の目的で日本山岳会に50万円寄付の有る旨、毛利より報告あり。
3. 委員会報告
 - ①会計(市川)：会費未納者の報告、来年の各委員会毎の必要経費の確認がされた。今年度の委員会費が未精算の委員会は早急に処理するよう依頼。
 - ②支部友委員会(金谷)：2月・3月の山行報告並びに4月の山行計画の実施見通しにつき報告。支部友ミーティング：4月予定の「夏山への誘い」の実施の可否は検討中。6月は實川氏に講演依頼済。
 - ③愛知県岳連(鈴木愛)：欠席。資料配布のみ。
 - ④山行委員会(鈴木慎)：3月の山行計画実施については全て中止、4月の山行計画も中止とした旨報告。リーダー会議は書面でやり取りする事とし会議は中止にした。2019年度の支部山行実施状況はコロナ感染症の問題もあり、56回の計画23回が中止になった。
 - ⑤猿投の森づくり委員会：和田代表欠席の為資料配布のみ。4月に予定された観桜会は中止になった。
 - ⑥東海コース(服田)：会員は現在18名、但し3月末に1名退会予定。3月に予定していた山行はコロナ感染症のため中止とした。規約改定案が提示され、審議の結果提案通り、年齢制限については入会時概ね45歳以下、年会費は500円に減額することで承認された。
 - ⑦亀の会：委員長欠席のためメールでの報告を配布。
 - ⑧登山学校運営委員会(榊)：2月の山行は全て終了した。3月は全て中止とした。4月も全山中止の予定をしている。机上講習の3月分「山のトラブル対処法」は4月に延期したが中止とした。また、指導員候補者研修は座学・実技ともに中止とした。先月に承認された登山学校の

OB会の名称は「東海支部登山学校同窓会」とする事にした旨報告。登山学校第4期の支部友及び支部員向け優先募集をメルマガおよび支部報にて実施。教室は初級を4教室、中級を4教室、上級を1教室とする計画している。また、第4期から登山学校の受講費は年間12,000円とし、支部友会、支部会費は別途とすることとした旨報告。

⑨60周年記念事業：

A) 記念出版(星)：インドヒマラヤの増補版と英語版について発売の時期が半年ほど遅れて2021年4月頃になる。また、60周年の冠を付けて販売することとした。記念出版物のPRをして戴きたいとの事。

B) 全国支部懇談会：佐野副支部長より、準備は順調に進んでいる旨の報告。

C) 60山ラリー：山田副支部長よりHPから対象の山の地図が印刷できるようになったむね報告。また3月17日現在でラリー参加者は108名になったとのこと。

D) 海外トレッキング：尾上委員長より現在のところヒマラヤとカナデアンロッキーの2件企画されている。まだ少ないので、その他のエリアの企画も募集している旨報告。

⑩青年部(鎌倉)：海外転勤が延期になり引き続き青年部で活動する事になった。また青年部からの退会者が増えているので対策を検討する旨報告あり。

⑪学生連盟(草野)：3月は御在所前尾根、能郷白山、神奈川大学主催のクライミング合宿を実施した。4月9日に次年度の計画を立てる旨報告があった。

⑫遭難対策委員会(山田)：3月の遭対委員会は中止した。策定中の活動計画案は3月26日に検討会を実施。今後リスクチェック表は判定基準を数値化出来る様にする。また気象講習会は登山学校と共に夏山気象講習会を7月18日、冬山気象講習会12月12日に予定している。

⑬ボランティア委員会(前田)：3月の計画は中止した。5月の知的障がい者の登山は全て自粛する事になった。その他ブラインド登山などの計画は、状況判断をしながら計画していく。

⑭写真展実行委員会(井上)：3月17日から開催予定だった写真展は新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み延期せざるを得なくなった旨報告と同時にその結論に至るまでの経過説明あり。新たな開催日並びに会場は未定であるが、現会場の仮予約を2021年2月で済ませて

あるとのこと。

⑮デジタルメディア委員会(井上)：60 山ラリーホームページ全山リストの山番号から地形図を印刷できるようにした。但し静岡の山のデータは未だ一部しか入っていない。

⑩総務委員会(毛利)：森の音楽祭の補助金の入金が確認されたので報告書を作成したので配布。また支部報は 30 日に発送される。また夏山フェスタは 6 月に開催される。チラシは支部報に入る事になる旨報告された。

出席：高橋、尾上、毛利、榊、市川、佐野、天野、鈴木、山田、金谷、前田、星、井上、服田、鎌倉、草野、藤寄

【2020 年 4 月／5 月常務委員会】閉会

会員異動

入会：足達京子(16587) 雑賀 昭(16591)
平田文興(16619) 吉澤和代(16621)
平井まり(16626) 伏屋 満(16632)
小川義夫(16633) 岩間洋子(16634)
伊藤 稔(16636) 林 和恵(16637)
加藤俊行(16638)

退会：島田 俊之(14645) 田島 章(15813)
吉川あすか(15845) 井上優美(15734)
吉川拓矢(16214) 都築祥子(16142)
藤本稔子(15098) 中村睦明(14429)
長坂 博(8803) 酒井 広(12855)
清水葉月(16502) 谷 育子(15300)

物故：一柳 政右衛門(5182)

【写真展実行委員会からのお知らせ】

INFORMATION

【ボランティア委員会からのお知らせ】

◇親と子のふれあい登山教室のご案内◇

秋の親と子のふれあい登山教室を下記の予定で開催します。

10 月 24 日(土) 第一自由ヶ丘幼稚園

11 月 14 日(土) 第二、第三自由ヶ丘幼稚園

山 名：鈴鹿・尾高山(533m)

ご支援をいただける方は、下記までご連絡ください。

連絡先：メールアドレス：

maeda@iq@gmail.com

ボランティア委員長 前田隆久

ゆうちょ銀行口座の開設(写真展開催時の入金用。今迄の個人名通帳から写真展実行委員会名に変更)と写真展実行委員会の「運営規約」の作成を行いました。これによって写真展実行委員会の運営をよりよくして行きます。

延期となっております第17回東海岳人写真展は来年(令和3年)2月2日(火)～7日(日)名古屋市民ギャラリー栄8階、第9・10展示室で開催予定です。開催の節には会員の皆様方はもとよりご友人等お誘いの上ご来場お待ちしております。

写真展実行委員長 坂本 孝

【猿投の森づくりの会からのお知らせ】

◇森の探検隊のご案内◇

11 月 14 日(土)に幼稚園児が森に親しんで頂けるよう“森の探検隊”と称してイベントを開催します。簡単な木工細工と紅葉した木の葉を観察しながら猿投の森の自然を探検します。予定では今年も“ひなご幼稚園”の園児と父兄約 100 名が参加予定です。当会の顧問であり愛知県議会議員の神戸ひろみ議員が園長で活動を強力にバックアップして頂いています

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

ル ー ム 日 誌

— 3 月、4 月、5 月 —

ルームの使用自粛により、開催記録はありません。

編集後記

新型コロナウイルスの猛威により毎日の生活が一変し登山活動や支部の行事もガイドラインに従い延期や中止の状況が続いている。今は手探りの状態の支部運営ではあるが、知恵を出して進めたい。今号では、山小屋情報や安全登山についての留意点を掲載しているので、目を通してください。

星 一男

SINCE 1975

mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心もそろえて
お待ちしております

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に
そろそろモンベルストアへ。



- 岐阜店** 岐阜県岐阜市柳津町丸野3-3-3 カラフルタウン エミノワ内
- 各務原店** 岐阜県各務原市加賀場町3-8 イオンモール各務原 2階
- 豊橋店** 愛知県豊橋市飯村町西山7-645
- 長久手店** 愛知県長久手市片平1丁目901
- 名古屋店** 愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階
- ららぽーと名古屋みなとアクルス店** 愛知県名古屋港区港明2-3-2
ららぽーと名古屋みなとアクルス 1階
- 新静岡店** 静岡県静岡市葵区豊田1丁目1-1 新静岡セノバ 4階
- ららぽーと豊田店** 静岡県豊田市高見丘1200ららぽーと豊田 1階
- 浜松店** 静岡県浜松市東区上西町985-1 浜松プラザウエスト内
- 長島店** 三重県桑名市長島町浦安368
三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
- 鈴鹿店** 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階
- モンベルルーム豊田店** 三重県三重郡菟野町大字菟野8625
(豊田所口アウエイ前)

豊橋店・名古屋店・長久手店・長島店では、アウトレット商品も取り扱っています。

【お問い合わせ】 0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740
モンベル・カスタマー・サービス ※フリーコールは専用IP電話からご利用いただけます。

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004 久屋大通駅 徒歩1分
www.nygs-office.com

『東海支部報』では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは

room01@muse.ocn.ne.jp まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 Honesty

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市中区東区矢田東1番22号
TEL (052)719-0677 FAX (052)719-0678
E-mail: info@asai-rbs.co.jp